

「4.15処分」による社会的批判の声

日刊 動労千葉

80.7.22
NO.488

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
電話二二五八〇九（公衆電話）二二七二〇七

各界人士四二九名の不当処分撤回要求署名をもつて、対国鉄本社抗議行動を行う

七月一八日、千葉県選出社会党衆議院議員団・新村勝雄氏・黒野（小川国彦氏）秘書、反対同盟・石井武氏、支援共闘会議・浅田光輝氏・長谷川英憲氏は、動労千葉への不当処分に抗議し撤回を要求する署名者四二九名を代表して国鉄本社へ出向き、処分抗議と撤回を要求する申し入れを行った。

これは、「当局・『本部』」反動分子一体となった動労千葉への不当処分策動弾劾決議」を採択した5・25三里塚集會を皮切りに、五月二七日反対同盟・ジェット闘争支援共闘会議による対千葉鉄局抗議交渉、五月二十九日、社会党千葉県本部の千葉鉄局への「処分策動を中止」せよとの申し入れ行動をひきつづ、反処分、動労千葉支援の闘う輪のより全国的拡大を示すものである。そして、なによりも闘う輪の全国的拡大をやりだした核心は、動労千葉が処分の不当性を暴露し、職場からの大衆的決起を基礎に「本部」反動分子の「再建」デッチ上げ策動をことごとく粉碎し、五五・一〇ダイヤ改悪阻止、乗務員運用合理化粉碎、五六・三ジェット燃料貨車輸送延長策動阻止を目指している動労千葉の闘いである。

全組合員のみなさん。
闘争体制のさらなる強化をもつて選別的に不当処分反対の声を全国により広くより深く拡大しよう。そして、反処分闘争とあわせて「本部」反動分子を闘う陣型で包囲し、「業務再開」なるペテン的「再建」策動を粉碎し尽すまで闘い抜こう。

「4・15処分はレッドパージと同じだ」と陸続と決起

国鉄当局と「本部」反動分子一体となった動労千葉への選別的に不当処分は、あまりにも不正義であるがゆえに、時がたつほどに「レッドパージ処分と同じだ」と多くの支援・連帯する人々が決起している。

七月一八日、国鉄本社に申し入れた処分撤回署名四二九名（第一次集約分）は市川誠氏（総評顧問）、岩井章氏（元総評事務局長）をはじめとする労働運動関係の人々、羽仁五郎氏（歴史学者）、浅田光輝氏（立正大学教授）などの学者・文化人そして反対同盟をはじめ全国の住民運動をになう人々であり、小川国彦・新村勝雄両氏などの議員関係の人々である。

こうした各界の人々が不当処分に反対し動労千葉支援に決起、共感を送ってくれることに対し、われわれは、闘いの勝利をもつてこたえきらねばならない。

反処分・「再建」策動粉碎の持久的闘いを！

今や「本部」反動分子は、6・28、7・5の二度にわたる「再建津田沼支部」デッチ上げに破産し、大動揺をきたし、動労千葉に対してあろうこ

「加害者が被害者を処罰する卑劣な手口」怒りの声

● 岩井 章（国労労働学校校長）
徹底的に闘って下さい。

● 金子 信（総評地方オルグ）
動労千葉に結集するみなさんが、権力またはそれと野合する中央の謀略を粉碎し、不当処分を撤回されることを信じ、ともに闘います。

● 大城昌夫（沖縄石油基地反対同盟副議長）
国鉄当局と動労本部が共同謀議の上、動労千葉に暴力的襲撃をかけたのに対し、動労千葉の組合員が正当防衛の行動をとったのに対し、国鉄当局はこれを暴力行為として処分を強行した。これは加害者が被害者を処罰する卑劣な手口である。

● 寺沢迪雄（水戸平和問題懇談会）
労働者の基本権を守る行動にたいし、不当処分することは自由と民主主義を守ろうとする国家として許すべからざることである。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！